

新

# 臨床研修歯科医 ハンドブック

## Essential Handbook for Dental Residents

●監修

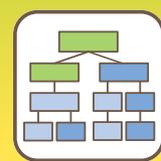
廣藤 卓雄 (福岡歯科大学教授)

栗野 秀慈 (九州歯科大学教授)

平成 **28** 年度 診療報酬改定対応版

2大特典

- 1. Web動画
- 2. 電子版アプリ利用権 (iOS, Android版)



## 9-1 防湿法

### ■ 目 標

- ・ 歯科治療における防湿の意義を理解し、各種術式に応じ適切な防湿法を選択して実施できる。

#### Point

- ・ 防湿法にはラバーダム防湿法と簡易防湿法がある。
- ・ ラバーダム防湿法では、ラバーダムシートで患歯のみを露出させ口腔内から隔離することで患歯を唾液による汚染から守り、洗浄液の口腔内への漏洩、器具の口腔内への落下を防止し、口唇や舌などの軟組織の排除により安全な術野を確保する。
- ・ 簡易防湿法では、ロールワッテやガーゼなどを患歯の頬側や舌側に置き一時的に唾液を隔離する。完全な防湿は得られないがラバーダム防湿が困難な際によく用いられる。

### ■ 目 的

- ・ 歯科治療の前準備として、患歯をラバーダムシートにより口腔内から隔離する。あるいは、ロールワッテやガーゼなどにより患歯を唾液から隔離する。

### ■ 用意するもの

- 1) ラバーダムシート
- 2) ラバーダムパンチ
- 3) ラバーダムクランプ (各種)
- 4) ラバーダムフォーセップス
- 5) ラバーダムフレーム
- 6) デンタルフロス
- 7) 排唾管
- 8) 消毒薬 (ヨードチンキ, 消毒用エタノール)

\* 簡易防湿の場合は、ロールワッテ、ガーゼなどを用意する。

### ■ 処置の流れ

①患歯の清掃→②クランプの選択 / デンタルフロスの結紮、試適 (図 1) →③シートの穿孔およびクランプのウイングへの装着 (図 2) →④患歯へのクランプ装着 (図 3) →⑤フレームの装着 (図 4) →⑥シートをウイングから外す (図 5) →⑦フロスでシートを歯間部に通す (図 6) →⑧装着状態の確認 (図 7) →⑨患歯を中心に消毒薬で清拭→⑩排唾管を患歯と反対側の口角に装着

\* 簡易防湿の場合は、ロールワッテなどを、患歯の唇・頬側や舌側に留置する (図 8)。

### ■ 注意事項

- 1) クランプにデンタルフロスを結紮しておくこと誤嚥の防止になる。
- 2) 必ず患歯にクランプを試適し、あらかじめ適合状態をチェックする。
- 3) クランプ装着時には、歯肉を挟まないようクランプを歯面に沿わせる。
- 4) クランプが外れやすい場合 (支台歯形成されアンダーカットがない、残存歯質が少ないなど)、歯の周囲に歯面処理をせず、直接フロアブルレジンを流し重合してアンダーカットをつくる。
- 5) 残存歯質が少なくクランプがかからない場合、感染歯質の除去後、歯面処理を行い、フロアブルレジンなどで隔壁をつくる。



図1 フロスを結紮したクランプを患歯に試適



図2 クランプの翼のシートへの装着



図3 フォーセップスで患歯に装着



図4 フレームの装着



図5 練成充填器でシートを外す



図6 フロスでシートを歯間部に通す



図7 装着状態の確認



図8 6への簡易防湿

- 6) ラテックスアレルギーの患者に対しては、ノンラテックス製のラバーダムシートを使用する。
- 7) 装着状態の確認では、フレーム先端が目にならない、ラバーダムシートが鼻孔を覆わない、フレームが回転していないことをチェックする。

## ■ カルテへの記載

33歳の患者の抜髄処置の場合、病名：3| C<sub>3</sub> 急性化膿性歯髄炎

7/8	初診	234
	患者に、う窩が歯髄腔に近接し、感染象牙質が歯髄組織まで到達しているため、抜髄の必要性がある旨説明する。	—
3	X線(D) 1F アナログ撮影	48
	X線写真所見：3  歯冠部近心側に歯髄腔へと到達する透過像を認める。	—
	ラバーダム	—
	抜髄（キシロカイン 1.8 mL×1 使用）	228
	Ca(OH) <sub>2</sub> 製剤貼薬	—
	EZ 仮封	—

・処置に際してラバーダム防湿および簡易防湿を行った際には保険点数の加算はない。

〈泉 利雄〉

